

グラフでみる 福生市の歩みと現況

●人口は40年から急増

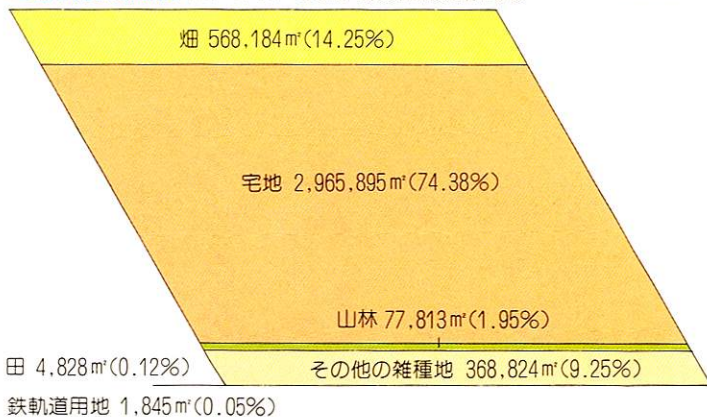
明治・大正時代は3000人台の小さな村だった福生も戦後と同時に1万人を超え、40年以降は毎年1000人前後の新住民を迎えて、58年9月5日ついに5万人都市に。58年1月の世帯数は1万7413世帯で1世帯当たり2.8人と核家族化がすすんでいます。

一方、65歳以上の高齢人口比率は5.8%で、都平均より低いものの、今後は急速に高齢化社会がやってくると思われます。

●土地状況

「田んぼなんてあるの?」というのもごもつとも。でもまだ畑は残っています。殆どが宅地ですが、市では緑地保全に力を入れ、その用地確保にあたっています。

地目別課税面積 (昭和58年5月1日現在) 固定資産概要調査による



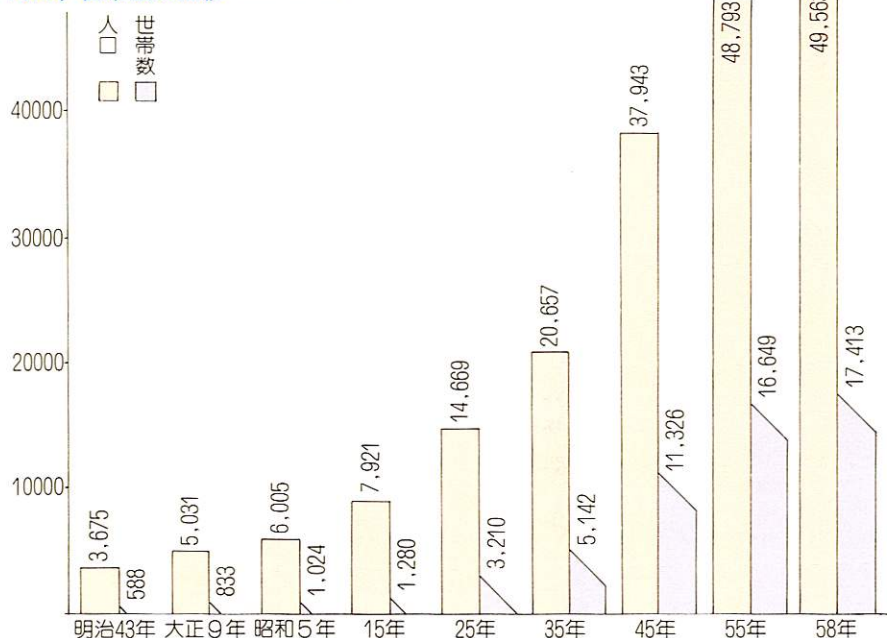
●小売業関係者の多いまち

農業等の第一次産業従事者はわずかで、大半の市民が第二次、第三次産業従事者。なかでも多いのが「卸・小売業」従事者で、さすが多摩地区の商業の拠点であることを示しています。

産業別事業所数及び従業者数 (昭和56年事業所統計調査による)

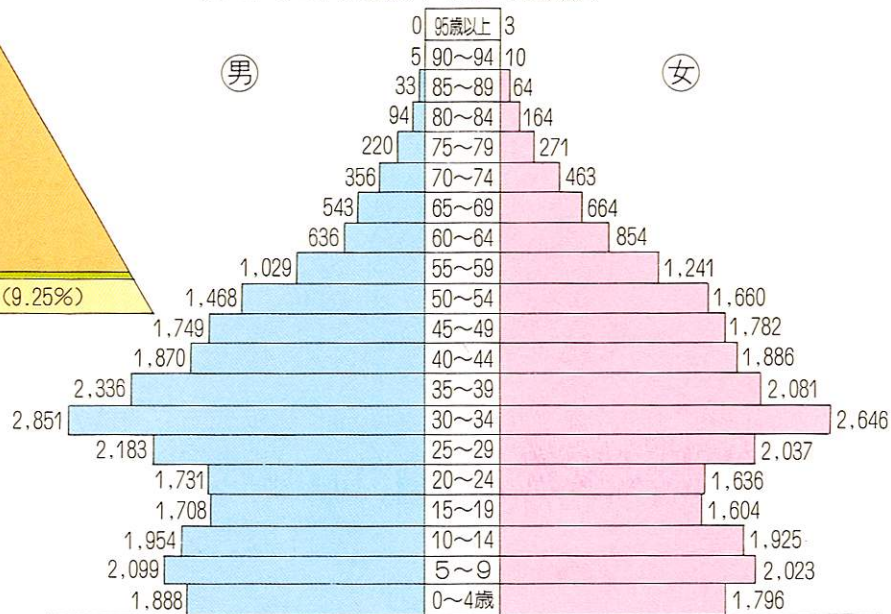
産業	事業所数	従業者数
農林水産業	13 (4)	
鉱業	11 (2)	
建設業	1,101 (147)	
製造業	2,695 (192)	
卸・小売業	6,547 (1,284)	6,547 (1,284)
金融・保険業	647 (44)	
不動産業	264 (67)	
運輸・通信業	836 (26)	
電気・ガス・水道業	197 (3)	
サービス業	3,396 (462)	
公務	649 (14)	

人口、世帯数の推移 (各年1月1日)



5歳階級別人口の状況

(昭和58年1月1日) 24,753人 総数 24,810人

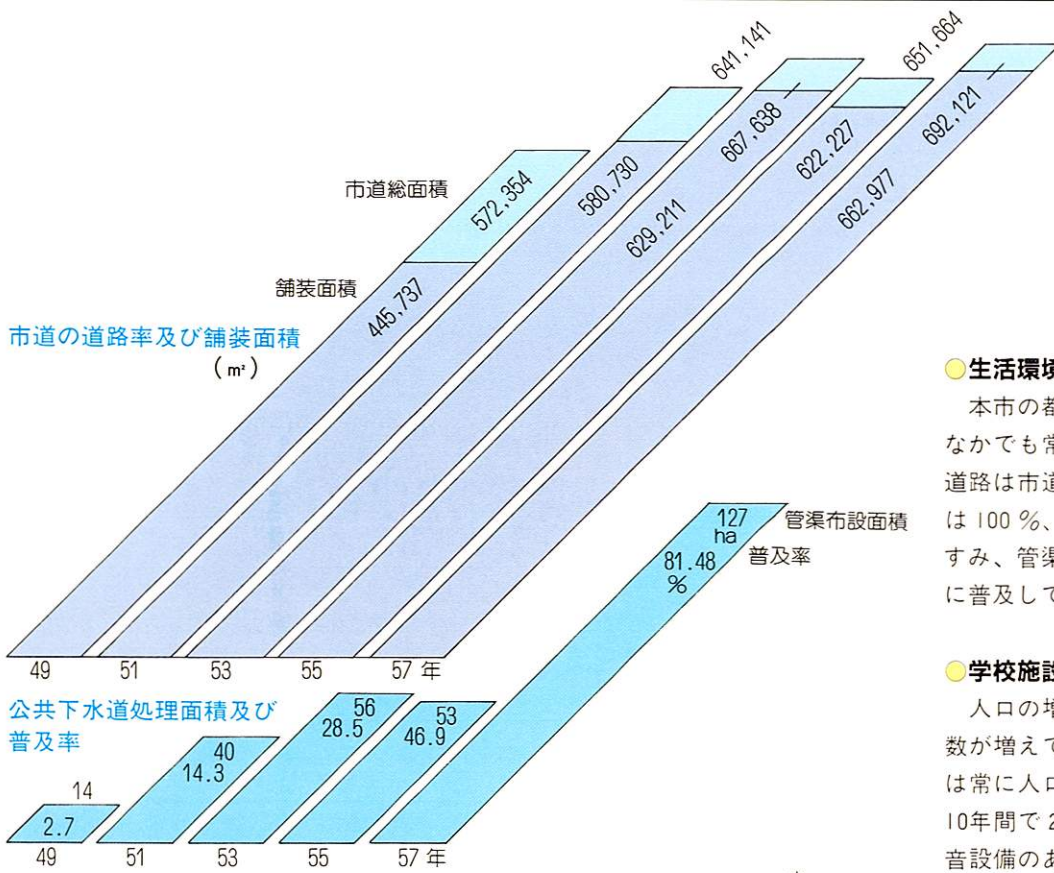


●公園の広いまち

市内の公園はスポーツ場としても完備した多摩川緑地南公園、武蔵野台公園をはじめ22カ所。さらに児童遊園は14カ所にあります。市民1人当たりの公園面積は4.15㎡です。

公園比率 (各年4月1日) ※都市公園のみを対象とし、基地面積は除く

年	公園率 (%)	市民1人当りの公園面積 (㎡)	公園面積 (ha)
50	2.1	3.48	15.9
52	2.2	3.37	15.9
54	2.3	3.36	16.5
56	2.6	3.78	18.35
58	2.9	4.15	20.54



●生活環境の整備着々と

本市の都市的環境の整備状況は周辺市町のなかでも常にトップを誇っています。例えば道路は市道の舗装率も95.8%、上水道の普及は100%、さらに懸案の下水道工事も年々すすみ、管渠布設面積はすでに計画面積の90%に普及しています。

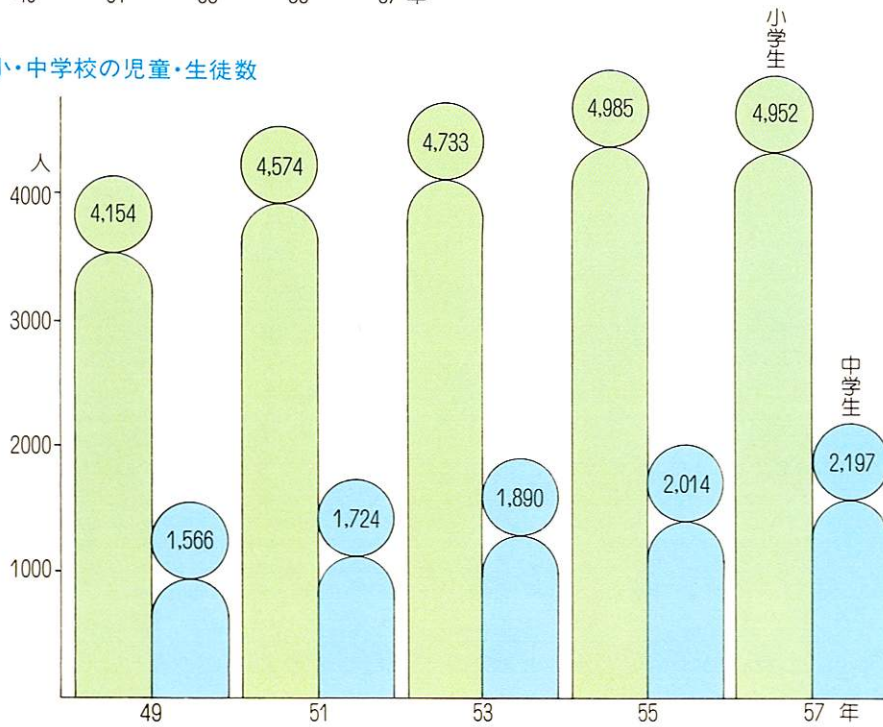
●学校施設は全校近代的な校舎に

人口の増加で一番問題になるのは児童生徒数が増えて教室が足りないこと。幸い本市では常に人口増を予測して施設の拡充をはかり、10年間で2校新設しました。校舎はすべて防音設備のある近代的な校舎です。

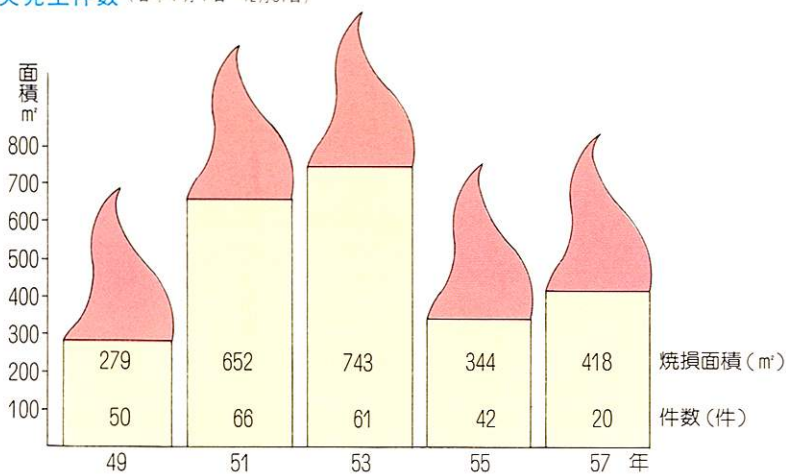
●火災は減ったけれど交通事故はまだまだ

10年前には毎年50件以上の火災がありましたが、57年には20件に。市民の防災への関心が高まり、防災体制も整ったせいでしょう。しかし交通事故は171件(57年、人身、物件事故の合計)発生し、4人が死亡しました。ドライバーも歩行者も充分気をつけたいものです。

小・中学校の児童・生徒数



火災発生件数 (各年1月1日～12月31日)



福生市の交通事故件数

